

小学生版

あたらしい児童書 NO. 319 2026. 4. 1

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL42-3632
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『すきがいっぱい』 谷川 俊太郎、西 加奈子／詩

・おかしのおとおいのおはおんなじおおかあさんのおとおならのおはちがうおかな(「おとお」より) 谷川俊太郎と西加奈子による、詩の往復書簡。こだまのように響きあう26篇を収録する。(0~5、般)



『おばけたんてい花子さん けっこんしきで つかまえろ』

齊藤 洋／作

・今日のお昼ごろ、のぞきと、野球の試合の妨害と、痴漢が同時に起こった。探偵の花子さんは犯人を捕まえるため、なぜかウェディングドレスを着てきて…。トイレの花子さんが活躍する「おばけずかん」シリーズ番外編。(小初)



『かおがはずれるともだち』 松井 ラフ／作

・昔から知られているおばけを今の時代にアレンジしたお話と、作者のオリジナルのお話の、2つのおばけ話を楽しめる本。1は、「かおがはずれるともだち」「おわすれですよ」を収録する。(小初)



『おしりダンディ ザ・ヤング 11 はっけん!おかしなせき』

はるはら ロビンソン／原作・構成

・「おしりたんてい」の父「おしりダンディ」の若き頃の冒険譚。ダンディと助手のヘーヘーが「おかしな遺跡」を探していると、甘い匂いが漂ってきて…。4つのお話を収録。かくれ問題あり。『最強ジャンプ』連載漫画を単行本化。(小初)



『図書館のぬいぐるみかします 4』 シンシア・ロード／作

・ぬいぐるみのひよこのピッピーは、図書館のぬいぐるみ<ブック・フレンド>。おかあさんは、めんどりのぬいぐるみのコココです。ある日、男の子に空港へ連れていかれたピッピーは、男の子のもとを離れ、ひとりで冒険に出ますが…。(小初、小中)



『みょうが宿』 川端 誠／作

・食べすぎると「物忘れがひどくなる」といわれる茗荷を客に振る舞い、悪だくみを企てた宿屋の夫婦。朝、客が宿を後にすると…。痛快な落ちにスッキリする落語絵本。(小初、小中)



『全国小学生おばけ手帖 3 ムカつく幽霊編』

しろやぎ 秋吾／絵・文

・ホラー作家・田辺青蛙が、全国の子どもたちから聞き集めた不思議な話やこわい話を、豊富なイラストとともにコミカルにまとめた小学生実話怪談集。「おならの幽霊」「空飛ぶ髪」など、全33話を収録する。(小中、小上)



『リヒト!』 イノウエ ミホコ／作

・「理人、最後に伝えておきます」祖母の節さんがぼくに託した、中身のわからない封筒。節さんが伝えたかったことは何? 疑問を抱えながら、ぼくは「苦手なあいつ」とドイツへ向かうことになって…。(小上)



『異聞今昔物語』 森谷 明子／作

・時は平安時代、荒れた都でたくましく暮らす草太は、年老いた僧に出会う。古今東西の話を集めている僧から話を聞くうち、草太はその魅力にひきこまれて…。平安時代の説話集「今昔物語集」の話をちりばめた、あらたな物語。(小上)



『エイト!』 嘉成 晴香／作

・不登校だった小学5年生の永都は、突然、母と一緒にエジプトで暮らすことになった。文化の違いに驚く永都だが、人々と触れ合いながら、自分を見つめ始め…。少年の成長物語。(小上)



『ポジション!』 高田 由紀子／作

・スポーツは苦手なのに、「背が高いから」という理由だけでミニバスチームに誘われた、小学5年生の芽吹。友達ができるかもと入団を決意するが、運動神経のなさで迷惑をかけ…。自分の居場所を模索しながら成長していく物語。(小上)



『ひとりぼっちのベア』 ハンナ・ゴールド／作

・母親を事故で亡くし、科学者の父親の自然科学調査に同行して、北極圏に滞在することになった11歳の少女エイプリル。白夜の夜、迷子のホッキョクグマに出会ったエイプリルは、クマを故郷の島にかえそうとするが…。(小上)



『日向丘中学校カウンセラー室 3』 まはら 三桃／著

・卒業式をひかえた日向丘中学校。数日前からおかしな噂が広まり、学校内には不穏な空気が漂っていた。カウンセラー室にいる綾さんは、3年女子が竹刀で襲い掛かれた事件の関係者と話をしていたが…。(小上、中)



『フェンシング部の王子さま』 石川 宏千花／作

・フェンシング部に憧れ、江田学園・中等部に入學した歩羅。ところが、フェンシング部の先輩たちのノリは強烈で、とてもついていけそうにない。友人と剣道部に仮入部したが、フェンシング部には心ひかれる「王子さま」がいて…。(小上、中)



『君の火がゆらめいている』 落合 由佳／作

・自閉症をもつ双子の姉がいる“きょうだい児”葉澄は、大きくなるにつれ、家族を思う気持ちと自分の気持ちとの板挟みになる。そんなある日、「きょうだい会」に出会い…。きょうだい児が抱える葛藤をまっすぐに描く。(小上、中)

